

NO. 494

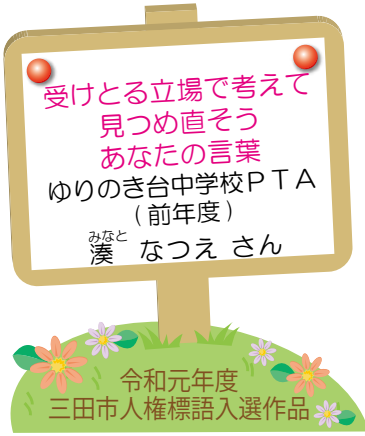
令和元年度  
三田市人権ポスター一優秀賞作品



狭間中学校3年(前年度)  
松浦 愛樹さん

# 人権さんだ

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。  
問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課  
(559-5148 FAX 562-1294 eメールアドレス jinken\_u@city.sanda.lg.jp)



令和元年度  
三田市人権標語入選作品

## 「心が感染」してしまわないように ～新型コロナウイルス感染症～

私たちの生活を脅かし、出口の見えないトンネルを歩んでいるような「新型コロナウイルス感染症」との闘いがまだまだ続いています。しかし、このような感染症との闘いは今に始まったことではありません。

今から1300年前、奈良の東大寺に大仏が造立された時代には、大地震や飢饉が続き、疫病(感染症)が流行したという記録があります。そのような時代にあっても人々は、感染症との闘いに知恵を出し合い、難局を乗り越えてきました。

また、私たちはすでに2020年(2020年)に発生した重症急性呼吸器症候群(SARS)や2012年頃に発生した中東呼吸器症候群(MERS)、新型コロナウイルスエンザなどの感染症の拡大を経験してきました。

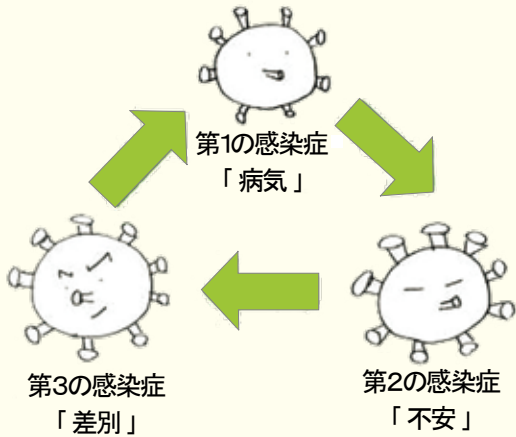
そして今回の新型コロナウイルスは正式名称を「SARSコロナウイルス2」といい、世界中で感染が拡大しています。4月に入って、「緊急事態宣言」が出され、職場や医療現場、学校などで感染拡大防止の取り組みが進められています。三田市においても4月15日に「三田市非常事態宣言」が出されました。

- ・感染した大学生の名前や住所を聞き出すとする電話が大学にかかる。
- ・〇〇人は危ないから近寄らないほうがよい。
- ・医者や看護師の子どもは登園しないでほしい。

咳をしているあの人、コロナかも。

「感染症」が嫌悪・偏見・差別を生む状況が、私たちの身の回りにありませんか？

日本赤十字社は、2020年3月26日に公開した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！負のスパイラルを断ち切るために」というパンフレットの中で「3つの顔」を提示しています。



第1の顔は「病気そのもの」です。

感染経路が分かっている場合もありますが、分からないままに感染してしまうことも多いです。感染すると、場合によっては重症化して肺炎を引き起こすこともあります。

第2の顔は

「不安や恐れ」です。

まだ治療方法が確立していない中で、分からないことが多いために起こり、私たちの気付



く力・聴く力・自分を支える力が弱まってしまふということですね。SNS(※1)では、間違った情報が拡散され、トイレトーパーの買いだめなど、それらに振り回されてしまふ事例が発生しています。

第3の顔は「嫌悪・偏見・差別」です。

なぜ、新型コロナウイルスの感染で「嫌悪・偏見・差別」が起こるのでしようか？

本来「見えな敵」であるウイルスへの不安から、例えば感染症に携わる医療従事者を「敵」と見なし、差別・疎外する気持ちが生まれます。私たちにとっての「敵」はウイルスであるはずなのに、いつの間にかその「敵」がすり替わります。その状況は、差別の仕組みそのもの



のと言えるでしょう。

特定の人、地域、職業などに対して、「危険」「ばい菌」といったレッテルを貼る心理によって偏見や差別は起こります。

そして大切なことは、これら「3つの感染症の顔」は、お互いにつながっているということですね。病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながり、「健康」が害されるだけでなく、私たち一人一人の「心」までもが感染してしまうことが、この感染症の怖さなのです。

※1 人と人との交流を手助けし、促進するためのインターネット上のサービス